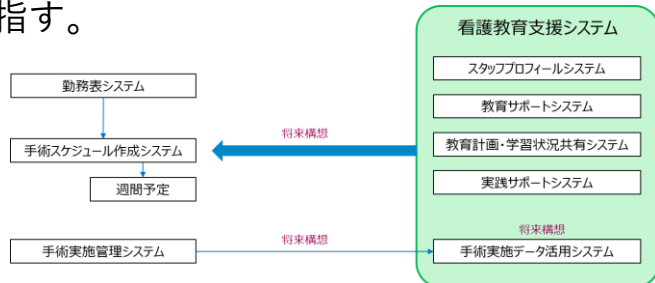


# 株式会社フィリップス・ジャパン

病院での手術看護教育支援システムの実証事業

## 本事業の目的・背景

2024年から医師の働き方改革への対応が病院に求められ、看護師などへ業務のタスクシフトを実現することが急務であるが、同時に看護師の離職率が問題となっており、タスクシフト先として十分ではない。看護師採用コスト増加による病院経営への影響というだけでなく、教育することへの作業負担が受け入れ側のスタッフに発生している状況である。新人スタッフが働き続けたいと思える職場作り、そしてきちんとした教育を受けることができる環境作りが求められている。本実証事業では、海外の医療クラウドビジネスのノウハウを生かして、日本の環境に合わせた看護教育支援システムの開発を行う。本システムは看護師本人がWEBアプリケーション上で自分の術式毎の経験実績を入力することにより、チーム全体で成長過程の「見える化」を行う。これにより、どの症例/術式に誰を担当させるべきかといったスキルマップの自動作成、手術部の効率的な運営の実現を目指す。



## 実施内容

- 以下を協業会社ドゥウェル社と実施した。
  - ①クラウドサーバーを活用したアプリケーション開発及び導入
  - ②検証施設でのプロトタイプ活用
  - ③手術看護教育支援運用フローの完全電子化をモバイル端末（WEBアプリケーション）で実現

### ■スケジュール

2023年7月～11月	要件定義
2023年9月～12月	開発
2024年1月	プログラム完成、現場検証

### ■役割分担

役割分担表 (◎:主、○:副)←

担当業務←	フィリップス←	ドゥウェル←
市場のニーズ調査←	◎←	-←
検証施設の選定←	◎←	-←
システム要件策定↓ (アプリケーション、システム構成、ネットワーク構成)←	◎←	○←
検証施設での打ち合わせ←	◎←	○←
システムの基本設計←	←	◎←
システムの詳細設計←	←	◎←
受入テスト←	◎←	○←
検証施設でのテスト←	◎←	○←
定例会議(フィリップス/ドゥウェル社間)←	◎←	○←

PHILIPS

## 株式会社フィリップス・ジャパン

病院での手術看護教育支援システムの実証事業

## 検証結果（成果）

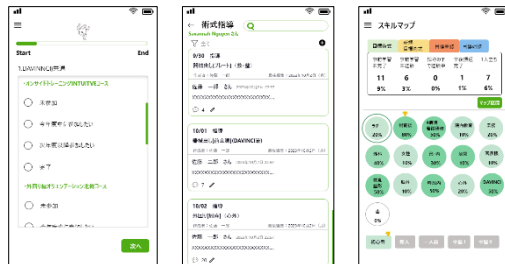
以下のような使用目的を実現するための機能を実装することができた。

## ■使用目的

- 学習者は自分のスキルを登録することでスキルマップとして可視化する。
- 指導者は学習者のスキル獲得状況に応じた教育計画などを立案し成長をサポートする。
- 手術に参加した学習者の評価を術式指導機能で入力する。
- 指導者間で学習者に対する教育状況を共有し、次回指導者に対する申し送り事項を記録する。
- 面談機能で学習者の目標面談を管理する。

## ■今回開発したソフトウェアが有する機能

- 看護師経験入力機能
- スタッフ経験管理機能
- ステップアップマップ機能
- スタッフ管理機能
- 術式指導機能
- 面談管理機能
- 教育計画機能



## 検証結果（課題）・解決策

今回、クラウド環境を用いたスタンドアローン製品としての導入に問題ないことを確認できた。しかし、医療DXを実現するためには、クラウド上のシステムと病院内のシステムが情報連携できる必要がある。また安価なシステムにするためには連携仕様及びマスターの標準化を急ぐ必要がある。このためにはセキュリティを担保しながら院外にデータ連携するための設備投資及び適切な管理ができる人材の充実が必須であり、各施設での対応だけでなく、診療報酬を含めた国のバックアップが重要である。

## 今後の活動予定

現在日本国内の病院は約8400施設あるが、そのうち約7000施設弱が手術室を有する。その中の300床以上を有する施設（およそ1000施設）をターゲットに本システムを提案する。スタンドアローン運用だけでなく、既存手術部門システムとの双方連携を実現した上で、看護師を含めた院内スタッフの働き方改革をサポートしたい。